

テーマ

望ましい人間関係をはぐくむ学級活動をめざして

～低学年における話し合い活動の工夫を通して（第2学年）～



<研究仮説>

学級活動における話し合いの場において、低学年における話し合い活動の指導を工夫することにより、児童が互いに認め合い、一人一人の意見を大事にするような望ましい人間関係がはぐくまれるであろう。

題材名「学習発表会の計画を立てよう」



南城市立船越小学校教諭
稲福 須麻子

第2学年 学級活動(1)学習指導案

平成 23 年 1 月 12 日 (水) 5 校時
2 年 2 組 男子 10 名 女子 10 名計 20 名
指導者 稲福 須麻子

1 題材名 「学習発表会の計画を立てよう」(1)

2 ねらい

- ・自分の考えを進んで発表したり、友達の考えを聞いたりして、互いの意見のよさを認め合いながら、学習発表会の内容を考えることができる。

3 題材について

(1) 題材設定の理由

近年、都市化、少子高齢化、地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、家庭や地域社会における社会性を身に付ける機会が減少し、人間関係の希薄化が急速に進んでいる。このような社会で生きていくためには、多様な他者と関わっていく活動を通して、自分への自信を持たせたり、社会生活を送る上で必要な資質や能力を体得させることが重要な課題になっている。特別活動は「望ましい集団活動」を通して「心身の調和のとれた発達」、「個性の伸長」、「集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築く」などの「自主的、実践的な態度」を育て、「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力」を養うことを目標とする教育活動である。その中でも、学級における様々な集団活動を通して学級への所属意識を持ち、学級の一員としての自覚を持って、生活の向上のために進んで貢献していこうとする実践的社会性を育んでいくことが、今求められている。

そこで、本題材は三学期の大きな行事の一つとして学習発表会があり、児童一人一人が主役となって活躍する場がたくさんあるため、児童がとても楽しみにしている行事の一つでもある。そのため、みんなが楽しく取り組み、話し合いを実践につなぎやすく、児童が意欲的に参加できることが期待できる。また、話し合い活動を通して、一人一人が役割を分担し、自分の役割や責任を果たすという集団の一員として、よりよい活動づくりに参加し、みんなでよりよい方法を考え、互いに協力し助け合って実践できると考え、本題材を選定した。

(2) 児童の実態

2 年生は、学校生活にも慣れ、様々なことに興味や関心を示し、活動の中心となる児童が目立ち始める学年である。また、他人の立場を認めたり理解しようとする態度やよりよい学級生活を築こうとする自主性や積極性などが高まってくる。本学級の児童も活動の中心となって、積極的に動く児童や仲間意識が出て、よりよい学級にしようとする児童が見られてきた。しかし、発達段階に個人差があり、人間関係づくりはまだ未熟で、自己中心的な児童がいたり、自分に自信が持てずに人間関係に不安を感じてる児童もいるのが現状である。また、Q-U 検査では、学級生活に不満を感じている児童がいたり、学級内で認められることが少ない児童も見受けられ、ルールや規範意識の定着の不十分さも見られた。

話し合い活動においては、発言者に偏りがあつたり、自分の意見にこだわりすぎる児童がいたり、自分の意見をなかなか言えない児童がいる。また、相手の話に耳を傾け、真剣に聞くことが苦手な児童がいて、話し合い活動のルールやマナーなどの指導をしながら進めている状況である。

このような中で、12 月に「お楽しみ会」の計画を立てて話し合い活動を行った。すると、話し合いのルールやマナーなどを守るように意識しながら、問題解決のための意見を発表したり、友達の意見を聞いて質問する児童が出てきたりして、自分たちで話し合いを進めようと頑張り、決まったことを実践することができた。このことから、学習発表会についても、友達と仲良く助け合いながら、2 年生なりに取り組むことができると思われる。

(3) 指導観

小学校学習指導要領解説（特別活動編）には、低学年の発達に即した指導のめやすとして、「教師が進行などの役割を受け持つことから始め、少しずつ児童がその役割を担うことができるようにしていくこと。また、友達の意見をよく聞いたり、自分の意見を言えるようにしたりして、学級生活を楽しむための集団決定をすることができるようにする。」と具体的に示されている。本学級の児童も話し合い活動の経験が未熟なため、まずは、教師が手本を示しながらこれまで話し合い活動を行ってきた。その後、徐々に児童に司会や記録などの役割を与えて話し合い活動を進めていくと、それぞれの役割に慣れたり、自分の意見を少しずつ発言する児童が増えてきた。しかし、話し合い活動において、発言者に偏りがあったり、自分の意見にこだわる児童がいたり、話し合い活動を行う上で低学年なりに進めていけるように工夫する必要がある。そこで、お楽しみ会の計画を立て実施し楽しむことができたという経験が、今後の話し合いに意欲的に取り組むきっかけになるのではないかと期待している。

そこで、本実践では「学習発表会の計画を立てよう」を議題にし、自分の考えをしっかりとって話し合いに臨ませ、友達と意見が合う場合と違う場合があることに気づかせたり、自分の意見を含め、友達の意見もしっかり「聞く」ことの必要性を感じさせたい。そして、児童がいろいろな意見から折り合いをつけることで、互いのよさを認め合い、集団の一員として責任を果たすことによって、望ましい人間関係がはぐくまれると考える。

4 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
・児童一人一人が自分の考えを持ち、話し合いに進んで、参加している。	・めあてに合った考えがもてる。	・友だちの考えを聞き、賛成や反対などの意思表示をしている。	・友だちの考えと比べながら、自分の考えをまとめている。

5 指導計画

(1) これまでの活動

月日・曜日	内 容	時 間	参加者
1月6日(木)	計画委員会・学級会ノートの準備	昼休み	司会グループ・教師
1月7日(金)	計画委員会・話し合いの進め方	昼休み	司会グループ・教師
1月11日(火)	計画委員会（司会進行の練習）	昼休み	司会グループ
1月12日(水)	学級会（本時）「学習発表会の計画を立てよう」①	5校時	学級全員・教師
1月13日(木)	学級会「学習発表会の計画を立てよう」②	1校時	学級全員・教師
1/14(金)~2/5(金)	学習発表会の練習		学級全員・教師
2月6日(日)	学習発表会	2校時	学級全員

(2) 本話し合いの指導計画

【事前の活動】

指導過程	活動内容	指導内容	教師の支援
課題発見	○議題の見つけ方を確認する。 ・議題用紙を配り、みんなでやってみようこととその理由を議題用紙に書く。	・子ども一人一人の、議題に対する思いや必要観を高める。	*いつでも、書けるように議題用紙と議題箱を設置しておく。
議題の決定	○議題選定の確認をする。 ・早急に、やらなければならない議題を決める。 「学習発表会の計画を立てよう」	・みんなの思いや願いが、反映された議題であることを確認する。	*議題が決まったら、朝の会などで事前に知らせる。
問題の意識化	(1) 学習発表会と学芸会との違	・これまでに学習して	・

	いを説明する。 (2) 学習発表会でやりたいことを、前もって考えさせる。 ・ みんなでできるもの ・ グループでできるもの	きたものの中から、発表できる物を考える。 ・ 自分の考えとその理由を、学級会ノートに書く。	* 学級会ノートの準備
	○話し合い活動への準備 ・ 計画委員会の仕事内容を確認し、役割を分担する。 (1) 学級活動 ・ 話し合うことについて、考えてきたことを、学級会ノートに書いてあるか確認する。	・ 議題に沿った話し合いのめあてを決めたり、シナリオの読み合わせの練習をする。 ・ 自分の考えとその理由が学級会ノートに書けているか、一人一人チェックしたり、アドバイスしたりする。	* 計画委員は、輪番制で行うようにする。 * シナリオの準備 * 机間巡視をし、書けない子達へアドバイスをする。

【本時の活動】

指導過程	学習活動	指導内容	教師の支援
話し合い活動	○司会団を中心に話し合いをする。 ・ 進行させる。 ・ 参加させる。	①学習発表会でやりたいことを考えさせる。 ②だれが何をするか考えさせる。	* 提案理由を意識した話し合いができるようにする。 * 学級会ノートを活用し、理由をつけて発言できるようにさせる。 * 友達の話最後まで聞くようにさせる。

【事後の活動】

指導過程	学習活動	指導内容	教師の支援
実践の準備	○話し合いで決まったことを実践する。 ○必要な材料や道具の準備 ○役割分担	・ 活動の計画を立てる。	* 実践のための時間確保や必要に応じて、用具の準備をする。
実践	○学習発表会を行う。	・ 仲良く楽しく活動させる。	* 仲良く助け合えるように、声かけをする。
振り返り	○活動や取り組みの反省や感想を作文に書く。	・ 活動についての自己評価をさせ、次に生かせるようにさせる。	* ワークシートを準備する。

6 本時の指導

(1) ねらい

学習発表会の話し合いを通して、自分の考えを進んで発表し、友達の考えを聞きながら、互いのよさを認め合い、みんなが楽しくなるような学習発表会の内容を考えることができる。

(2) 授業仮説

話し合いの場において、自分の考えをしっかりと持ち、ペアやグループで話し合うことによって、児童一人一人の意見が表出することができ、みんなの意見を聞き、互いを認め合うことによってよりよい集団決定ができるであろう。

(3) 展開

議 題		学習発表会の計画を立てよう	
提案理由		学習発表会は、やったことがないのでとても楽しそうだし、2年生みんなと仲良くやりたいから。	
本時のめあて		①2年生みんなが、楽しくなるような学習発表会を考えよう。 ②一人一人が自分の考えを発表し、友達の考えもしっかり聞こう。	
課程	学習活動	児童の活動	○教師の支援 ・ ☆評価 ※低学年の発達段階における工夫
導入 5分	1 はじめのあいさつ	・ 元気よくあいさつをする。	○席は、コの字の配置にする。 ※みんなの顔がみえるようにする。 ※歌うことで、「これから学級会をやるぞ!」と気持ちを高める。 ○自分の役割を自覚させる。 ※議長の側で、必要に応じて助言する。 ○話し合いの約束を、全員が守れるように、確認し進めていく。 ○提案理由の補足を行い、話し合いについて見通しを持たせる。 ○めあてを意識させながら、進めていくことの大切さを伝える。 ○学習発表会と学芸会の違いを、分かりやすく説明する。 ○日時・場所・対象者の掲示
	2 学級の歌	・ 大きな声で、元気よくうたう。	
	3 司会グループの紹介	・ みんなに聞こえるように、大きな声で話す。	
	4 議題の確認 学習発表会の計画を立てよう。	・ 議題は、みんなで読み上げながら、再確認をしていく。	
	提案理由の説明	・ 提案者はしっかりと説明する	
	5 めあての確認	・ 全員で読み上げる。	
	6 先生の話 (1) 三学期の大きな行事の一つである、学習発表会を、みんなで協力して、楽しくできることの大切さを説明する。 (2) 条件の確認 ・ 日時・場所・対象者 ・ 内容の項目数6つ	・ 去年の学芸会の様子をビデオで思い出させ、今年は学習発表会で少しやり方を変えてやることを伝える。そして、みんなで協力して楽しくできることを考えさせる。 ・ 条件を元に、考えていく。みんなでできるもの(2つ)グループでできるもの(4つ)	
	7 話し合い 「どんなことをやりたいか」 (1) 意見の確認	・ 意見の出し合いをする。 自分の考えと、その理由を	○学級会ノートには、事前に議題に沿った考えやその理由を書かせて参加させ、自信を持って発表させる。

展 開 30 分	(2) 質問, 賛成・反対意見 (3) 意見の選出 ・やりたいものに, ネームプレートをおいて, 意見を表出する。 (自己決定) (4) 集団決定	添えながら発表する。 ・賛成・反対の意見を述べさせる。 ・自分の意見と比べながら, 友達の意見を聞く。 ・めあてを再確認しながら, 話合わせる。 ・ネームプレートを, グループごとに黒板に置かせる。 ・意見がでなければ, グループで相談しながら意見をまとめる。(グループ学習)	☆友達の意見を聞いたり, 自分の意見を発表したりするなど, 話し合いに進んで取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度) ※教師は, 司会者の近くに座る。 ※自分の意見が発表できない児童には, 隣の友達と相談して, 発表しても良いことを促す。(ペア学習) ○司会には, 視点がぶれないような, 声かけを意識させる。 ○必要があれば, めあてに戻り, 視点をはっきりさせる。 ※ペアやグループで話し合いをするときは, 時間を決めて話合わせる。
ま と め 10 分	8 決まったことの確認 9 学級会の振り返り発表 10 教師の話	・決まったことを確認し, 実践への意欲をもつ。 ・学級会ノートに, 振り返りを書かせる。	○決まったことを確認し, 実践への意欲を持たせる。 ○めあてに沿って振り返らせ, 友達の良かった所も書かせる。 ○話し合いで良かった点を賞賛し, 次回の話し合いへの意欲をづけを行う。

(4) 評価

- ・自分の考えを進んで発表したり, 友達の考えを聞いたりして, 互いの意見のよさを認め合いながら, 学習発表会の内容を考えることができたか。

(5) 板書計画

きまったこと ・みんなのできるもの ・グループのできるもの	話し合うこと どんなことをやりたいか。	めあて 二年生みんなが、楽しくなるよう な、学習はつびよう会を考えよう。	ていあんりゆう 学習はつびよう会は、やったことがないので、とても楽しそうだし、二年生みんなと、なかよくやりた いからです。	ぎだい 学習はつびよう会の けいかくを立てよう。	第十二回 ハッピー学級会
---	--	---	--	---	---------------------

(6) 座席表

発表する力 (◎よくできる ○普通 △頑張ろう)

△ A	△ B	○ C	◎ D	◎ E
ノート記録	副司会	司会	黒板	黒板

イナズマグループ

△
T
△
S
◎
R
○
Q
△
P

キレニンコグループ

メテオエルドラゴグループ

○
F
○
G
△
H
◎
I
△
J

キラキラグループ

△	○	○	△	△
O	N	M	L	K